



# 土、種、作物を愛する

公益財団法人 自然農法国際研究開発センター

理事長 伊藤 明雄



今年の6月「奇跡のリンゴ」という映画が公開されました。ご覧になられた方も多いと思います。この映画の主人公である木村秋則氏の無農薬によるリンゴ栽培は、NHKのドキュメント番組『プロフェッショナル』や著書ですでに話題になっており、著書は26万部を超えました。

木村氏が実践する「自然栽培」の考え方には、当センターが研究普及している「自然農法」（創始者岡田茂吉1882〜1955）の考えと共通したところがあります。そのひとつに、「自然を生命ある生き物」として捉え、植物には意思があり、人間と同じように心を通わせることによつて、植物が反応してくれるということです。木村氏は、リンゴの木一本一本に声をかけ、感謝し、<sup>いたわ</sup>り、励まし続けていました。その結果、事情によつて声をかけなかった1本

の木以外は皆11年目にして念願のリンゴの花が咲いたということでした。

以前、私の子供2人が小学生のころ、夏休みの自由研究の宿題があり、私から人間の言葉の影響調査をしたらと提案しました。子供たちは鉢植えしたアジサイの花に「良い言葉」と「悪い言葉」ををかけ、花がどんな反応を示すのか実験しました。朝起きると玄関に置いてある2つの花の一方には「おはよう、今日もきれいだね、ありがとう」などの良い言葉を、もう一方には、ためらいながらも「きたない、バカ、きらい」などの悪い言葉をかけていました。2週間ほどすると、何と悪い言葉の方はすっかり枯れてしまい、良い言葉の方はきれいな花を咲かせ続けていました。2人ともこの結果にひどく驚いていました。20年も前のことです。歴然とした結果に私もすっかり感心し、私は、植物には意思があり、感情があることを再認識させられ

ました。当時、悪い言葉をかけた花には申し訳なさを感じ、枯れたアジサイに手を合わせたことを思い出します。創始者は植物にも人間と同じように魂、心が存在し、人間の感情を察知する能力があること、人間が植物に感謝すれば生き生きとするということを説いています。

このことに関連して、創始者はもう一つ重要なことを説いています。それは、植物を育てている「土」にも魂と心があるということです。何も言わぬ「土」が作物を育ててくれるその恩恵に対して人間が心から尊び、感謝を捧げることで、「土」が喜び、「土」が本来持っている健康な作物を育てる力「土の偉力」をおおいに発揮してくれるというのです。私は長年自然農法に携わってきましたが、プランターでキュウリを55本も収穫しているご婦人にお会いしたとき、「私はいつも、キュウリ

さんへの声かけはもちろん、野菜を育ててくれるプランターの土に直接手を添えて感謝しています」という言葉を聞き、この心の営みに感動しました。

当センターでは、「大自然を尊重し、その摂理を規範に、順応する」理念のもと、大自然（太陽、水、土、植物等）に感謝し、大自然の働きを観察しながら学び、その働きを活かす栽培技術の開発に取り組んでいますが、さらに「土の偉力」のメカニズム解明とその偉力の発揮に力を注いでいきたいと思っています。

木村さんの筆舌に尽くせぬご苦労に思いを馳せ、見事に奇跡のリンゴを成し遂げられたその姿に心から敬意と感謝を捧げ、多くの先達の自然への姿勢と英知に学び、より多くの方が実践していただけるよう、さらなる技術集約に向けて取り組んでまいります。